

令和4年1月4日

## 新年のご挨拶

一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会  
専務理事 佐藤四郎

新年明けましておめでとうございます。  
令和4年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

昨年、業界ではSDGs(持続可能な開発目標)の取組やCN(カーボンニュートラル)への対応などが話題になりました。低炭素でクリーンエネルギーの担い手とされてきたLPガスも化石燃料ゆえに存在意義が揺るぎかねないなか、グリーン化のため合成技術等を確立し、2030年の社会実装に取り組み商用化、2050年需要全量をグリーンLPガスに代替することを目指すとしました。一方でLPガス元売り5社もLPガスのグリーン化を共同で進めるため、「日本グリーンLPガス推進協議会」を設立し、技術開発事業を独自にスタートさせました。官・民それぞれでグリーンLPガスの社会実装に向け歩を進めていくことになりました。

コロナ禍の1年でしたが、そんな中明るい話題を提供してくれたのがMLBエンゼルスの大谷翔平選手です。ア・リーグMVP(最優秀選手)を満票で受賞。その成績は打者として46本塁打・100打点・26盗塁、投手として9勝2敗・156奪三振・防御率3.18の見事な内容です。7月のオールスターゲームでは初めて投打の同時出場を果たし、勝利投手になりました。現代野球では例のない二刀流選手としてMLBの歴史を塗り替える活躍をしました。毎朝、大谷選手がホームランを打ったニュースを聞き、喜んだ自分がいました。来季は外野守備を含めた三刀流の機会が増える可能性もあります。歴史的なMVP受賞はゴールではなく、球界の常識を覆していく新たな先駆者として、野球の神様と称されるペーブ・ルースをしのぐ二刀流選手に期待をしたいと思います。

さらにもう一人挙げたい人が藤井聡太さんです。棋聖・王位・叡王の三冠を獲得していましたが11月に竜王を獲得し、最年少(19歳3ヵ月)で四冠を獲得しました。竜王は最高峰のタイトルであり名実ともに棋界の頂点に立ちました。今までに四冠を達成した棋士は5人いました。羽生善治さんの22歳9ヵ月が最年少記録でしたが、それを大きく塗り替えました。将棋界に八つあるタイトルのうち半分を得た藤井聡太四冠は、未獲得の王将・王座・棋王・名人を獲得し、八冠全制覇の期待が高まっています。羽生善治棋士が七冠を達成したのが25歳の時でした。藤井四冠も自身のピークを「20代半ばぐらい」と語ったことがあり、夢の八冠全制覇を見守りたいと思います。

最後に皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶と致します。